

新宿 ビズタウンニュース

目次

ご利用ください

新宿区立 高田馬場創業支援センター 1-3

おじゃまします! ものづくりの現場 4-5

インフォメーション 6-8

中小企業の景況 8

No. 19
平成24年12月31日号

ご利用ください

新宿区立 高田馬場創業支援センター

本年10月に1周年を迎えた「新宿区立高田馬場創業支援センター」は区内での創業もしくは創業間もない方、事業継承・経営革新を目指す方を支援する施設です。単なる貸事務所ではなく、創業等に精通する職員が必要な情報を提供したり、経営相談を行うなど、利用者にとっての創業時の不安を軽減できるサポート体制があります。その具体的な内容や利用者の声を特集してみました。



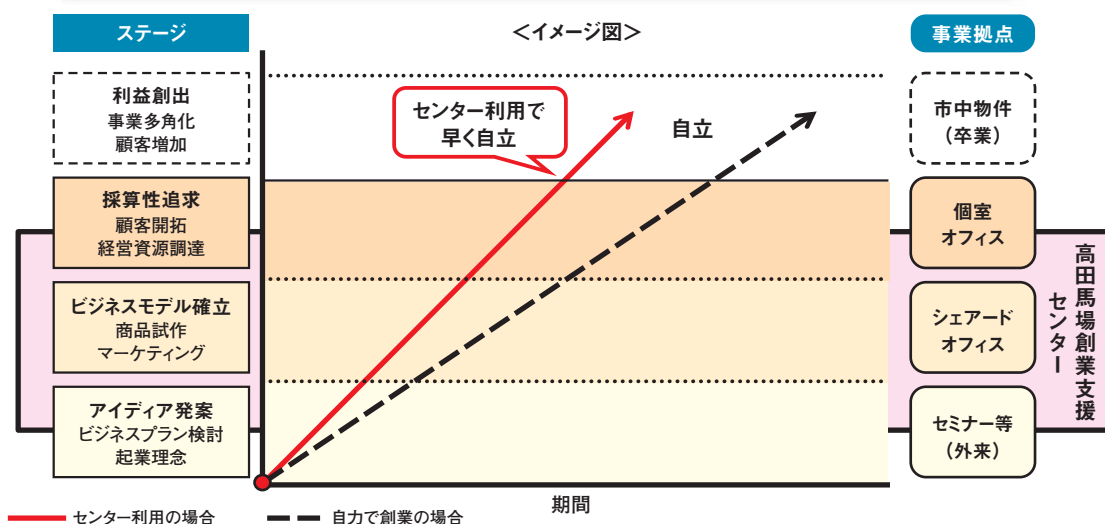
シェアードオフィス



個室オフィス

創業・経営革新等の初期活動をサポートします

新宿区立 高田馬場創業支援センターを利用すると・・・?



起業から自立までには様々なステージがあり、創業を志す方によってその都度悩みや課題が異なります。「新宿区立高田馬場創業支援センター」では、特に創業初期段階の活動をサポートしています。起業から自立まで、二人三脚で利用者の意欲をサポートしていきます。そうすることで、利用者の自立までの時間を短縮できるからです。



施設MEMO

【所在地】 高田馬場1-32-10 【電話】 (3205) 3031

【開館時間】 午前8時30分～午前0時(年末年始は休館)

【設備】 シェアード(共有)オフィス=10席、個室オフィス=2室、会議室兼商談室(18席)、交流スペースほか。インターネットができる机や、専用ロッカー等があります。



ここが嬉しい! ここが便利!

「インキュベーション・マネジャー」がいます

ビジネスの立ち上げや経営改革を目指す創業者にとって、資金調達や販路開拓、優秀な人材確保等、課題は尽きません。そんな創業者の日々の相談に乗り、専門家とのマッチングやアドバイスといったトータルサポートを行うのがインキュベーション・マネジャーです。センターにはインキュベーション・マネジャー等スタッフが常駐。創業者のニーズに合わせ、迅速に対応できるような体制をとっています。

インキュベーション・マネジャーの
福田 裕 施設長



ビジネスコンビニ機能があります

創業時は事務所やインターネット環境、電話やファクス等、一から準備しようとなると100万円以上かかるケースも多々あります。事業が軌道に乗るまでは、その初期段階のコストを軽減できるように、オフィススペースや会議室、インターネット、最新のプリンタ複合機等が低額で利用できます。不在時の電話取り継ぎや、郵便受け取り等のコンシェルジュサービスも行っています。



「専門家相談会」を随時実施

センター利用者を対象に、中小企業診断士等との相談会を随時実施しています。事業内容や進捗状況も人それぞれ。利用者一人一人の課題を克服するため、専門家と個別に相談できる場を設定しています。インキュベーション・マネジャーも同席し、利用者と二人三脚で問題解決に取り組んでいきます。



定期的な「創業セミナー」を開催

創業を検討している人を対象に、創業に関する疑問や不安が少しでも解決できることを目的に行っています。センター利用者でなくても受講できます。原則3か月に1回開催。創業の心構えや、発案から創業までのプロセスを学ぶセミナーを行っています。



地域との交流イベントもあります

地元の大学や企業・金融機関と連携し、ビジネスフォーラムやビジネス交流会等にも積極的に参加しています。



利用者同士の交流

利用者を対象に定期的に交流会を開催します(年4回程度)。事業成功に向かって共にチャレンジする利用者同士の交流や、連携促進が目的です。同建物内の調理室でお茶会を兼ねた情報交換会(「キッチンミーティング」)も開催しています。



駅至近!

JR山手線・東京メトロ東西線・西武新宿線の乗り入れている高田馬場駅「戸山口」改札から歩いて2分です!



オープン1周年記念イベント「高田馬場ビジネスサミット2012」開催

「高田馬場から生まれるビジネス。これからの展望」を視点に、事業継承セミナーでは多くの中小企業が抱える継承問題をテーマに、パネルディスカッションでは経営者の見る新宿・高田馬場の魅力をテーマに、それぞれ語っていただきました。

当日は「利用者紹介・交流コーナー」「ビジネスよろず相談室」も盛況でした。



事業継承セミナー

講師は鈴木信二氏(税理士法人アンビシャス 代表)



センター利用者紹介・交流コーナー

わかりやすい紹介パネルが目玉を引いていました



パネルディスカッション

パネラーは馬場章夫氏(愛国製茶株式会社 代表取締役)、川名和美氏(高千穂大学経営学部教授)、コーディネーターは早川由美氏(オフィスLibra 代表)

利用者の声

「新宿区立高田馬場創業支援センター」を利用して創業した2社に創業の経緯や苦労した点についてお話を伺いました。



オフィスLibra(リブラ)
http://www.officelibra.jp/
早川 由美 さん

スキルがあっても、信頼がなければ仕事はこない

—どんな事業を展開されていますか？

全部で4つあります。1つ目は講師本人に代わって研修や講演の日程や調整を行うマネジメント業務。2つ目はNPO法人や各種研究会、講演会の事務局を立ち上げるための下準備マネジメント。3つ目は社員育成、企業や学校のニーズに合わせた人材育成プログラムの開発。4つ目は最近着手した「社長さんのコンシェルジュサービス」。秘書を雇う程ではないけれど、ちょっとしたアウトソーシングしたい企業向けのサービスです。

—起業したきっかけを教えてください

民間企業で10数年勤めていました。その間、大学で学び直し、大学院へ進学をする際に会社を退職しました。東京都の再就職支援プロジェクトのお手伝いをしながら修士号をとりました。研究室の担当教授のアドバイスもあって、75歳まで働けるように自分で仕事を作ってみようというチャレンジを決めました。

—創業支援センターはどのように活用していますか？

利用後2〜3カ月はセンターに足を運んで施設長や利用者とは話す機会がありました。ところが最近、センターに來れないほど仕事が増えてきました。利用期間の上限は2年までなので、これがセンターを卒業するまでのプロセスということなんですね。

—センターを利用して良かったことは？

全然違う年代、業種の人と触れ合っている話ができることです。会社員時代は考えなかったのですが、誰かと一緒に仕事をするコラボレーションの面白さを知りました。苦手な分野も出来る人に任せればいい。モノづくり、IT、研修講師など、センター利用者の職種はさまざま。皆さんから刺激を受けています。

—これから起業を考える人へ一言お願いします

スキルがあっても、信頼してもらえなければ仕事はこない。ポイントを3つ挙げるとすれば「1・人脈（何かを頂いたらお返しするギブアンドテイクの関係）」「2・軸（何でも構わないからこれだけは負けないものを作る）」「3・じっくり考える（スピード社会だからこそ、一度立ち止まって熟考する）」。これからも、一つ一つを深く掘り下げて、「早川なら大丈夫」と思ってもらえる存在になりたいです。



株式会社ヴィサイブ
http://www.vicyp.co.jp/
辰巳 竜一 さん

独立はあくまで、目的を達成するための手段

—どんな事業を展開されていますか？

一言で表現するなら経営コンサルティングですが、目的と立ち位置に特徴があります。普通はマーケティングや経営戦略を分析する人、または顧問や指示に近い指導をする人が多いですが、私は実際にクライアント企業が主体に改善・改革を成功させる変革請負人です。具体的な進め方、リーダーシップ、マネジメントの仕組み、組織設計など、企業に合わせて必要なことを側面から支援します。

—起業したきっかけを教えてください

元々はシステムエンジニアとして、ITによる企業の生産性向上に取り組んでいました。でも、実際はシステムだけで改善はされない。純粋に企業の業績を向上させる仕事を探していたとき、出会ったのが変革請負人の仕事でした。しかし、5〜6年前、業界が不景気に陥ったため、ファンド主導による企業再生も仕事になりました。ファンドは3年で業績を見ます。再生する企業のことよりも、ファンドの儲けが重視される。私がやりたい仕事ではなかったため、起業を決定しました。

—創業支援センターはどのように活用していますか？

事務所を探していたときに、たまたまWebサイトを見つけた。期限ギリギリでしたが、運良く空きがあった。入ることができました。もともとレンタルオフィスを探していたのですが、センターの利用料は周辺の相場よりもずっと安かった。普段は外にでているのですが、拠点はやはり必要。運が良かったですね。

—センターを利用して良かったことは？

起業の際、課題となるのは「お金」「営業先」「ビジネスモデル」です。資金については、センターの利用料が安いことや、区の支援事業を紹介してもらえ、区などメリットがありました。また、定期的に開かれるイベントなどを通じて、知らない企業と出会うのは新規営業先を見つけるのに有効だと思っています。この恵まれた環境にいる間に、新たなビジネスモデルを模索できるのは大変ありがたいです。

—これから起業を考える人へ一言お願いします

何のために起業するのか？をあらためて考えることが必要だと思います。「二国一城の主になりたい」だけではダメ。独立はあくまで目的を達成するための手段なのですから。

◆創業支援センターご利用に関するお問い合わせは下記へ

新宿区立高田馬場創業支援センター ☎(3205) 3031

◆新宿区には創業される方のための融資を紹介する制度があります。ご利用については下記へ

新宿区地域文化部産業振興課 ☎(3344) 0702

聴覚障がいを乗り越えるための挑戦



同社の看板商品である「シルウォッチ」。現在のモデルは充電式

**補聴器だけでは支えきれない
難聴を持つ人の暮らし**

日本の聴覚障がい者数は約34万5000人（2006年度調査、厚生労働省）、そのうち手話を使える人は1/2割といわれています。聴覚障がいには大きく分けて3つの種類があります。音が伝わりにくくなっただけで補聴器を使用すれば聞こえるようになる「伝音性難聴」。音がゆがんで響いた



代表取締役 齋藤 勝さん

い手段であることを知らなければなりません。

ユーザーの立場から 出発したものづくり

株式会社東京信友の代表取締役である齋藤勝さんは、幼い頃の大病で耳が聞こえづらくなり深刻な聴覚障がいを経験することになりました。医学の道に進み1983年の創業時には医師への道徳研修を事業としていましたが、1985年に「株式会社東京信友」を設立。自らが聴覚障がい者であることから自由で安心できる生活を求めて、聴覚障がい者用の情報機器開発を手かけ、1998年に新宿区に福祉機器事業部を立ち上げました。このとき齋藤さんは69歳でした。

りするため補聴器を使っても言葉がハッキリと聞き取れない「感音性難聴」。そして、2つの原因が合わさった「混合性難聴」。聴覚障がい者にとっては補聴器だけでなく、電光掲示板やパネルなど「視覚を通じた情報伝達の方法」も暮らしへの安心に外せない

とは分かっていても、『何が起きた』かはすぐ分かりません。ランプが点灯する度に家中の様子を見て歩く必要がある、大変不便なものでした」

そうして齋藤さんがユーザーの立場から完成させたのが、現在同社の主力製品になっている「シルウォッチ」です。

聴覚障がい者が使いやすければ 健常者にとっても役立つ機械

一見、普通の腕時計に見えますが、ドアホンやファクスに送信器を設置すれば、腕時計が振動。液晶部分に文字が表示され、どこで何が起きたか一目で分かります。電波の受信、振動モーターを腕時計の大きさに収めたうえ、ボタン電池（現在は充電電池を採用）で6カ月も動作します。

「構想が固まり、国内の色々なメーカーに製造を依頼しましたが、どの会社も『技術的に無理』と断られました」



腕時計型目覚まし時計。振動で装着者を起こします。聴覚障がい者だけでなく、健常者に人気

それでも諦めず、見事に完成した「シルウォッチ」。今では聴覚障がい者の暮らしだけでなく様々な分野で応用されています。例えば工場の生産ラインの作業者が身につけて業務上のメッセージを受け取ったり、スーパーのレジで釣り銭切れを担当者に通知する、といった用途で使われています。

他にも煙感知機に送信器をつけ、火災時に「シルウォッチ」へメッセージを送れる火災警報器「シルタンちゃん」など、多くの聴覚障がい者向け製品を手がけています。「安心できる未来のために常に私たちは考えます」

同社のこの明確な視点は社会的にも大きな評価を得て、2002年「新宿区優良企業表彰」（※）はじめ、2008年「しんきんものづくり大賞最優秀企業賞」、2009年「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」など、多くの賞を受けました。必要とする人がいる限り、世界にもユーザーを広げられるような方法を考えていきたいそうです。

※新宿区優良企業表彰 （新宿区活き活き経営賞）

経営革新、経営基盤強化等の取り組みにより優れた実績を上げ、地域産業の発展と向上に貢献した中小企業に対し、東京商工会議所新宿支部と新宿区が表彰する制度です。

ガラスと鏡をもっと身近なものに



代表取締役 矢野 廣文さん

ガラステーブルから発した アルテジャパンの「創造」

代表取締役の矢野廣文さんは1972年にガラスインテリアを扱う「株式会社ティムサプライ」を創立しましたが、あるとき懇意にしている家具店が矢野さんに声をかけました。「ガラスを使ったテーブルをつくらないか？」

見せられた一枚の写真は天板にガラスが使われており、四隅の角が丸くなった、見たこともないテーブルでした。本来、窓にはめるガラスを平たく置いてテーブルにする発想は、矢野さんにとつて大きな驚きでしたが「これはいい」と即座に確信したそうです。ヨーロッパのガラステーブルを参

考に設計を開始。制作は普段から仕事をしている職人たちに依頼しました。そうして売り出したガラステーブルは爆発的ヒットとなりました。

1974年には社名も「株式会社アルテジャパン」に変更。イタリア語で「芸術」の意味を持つ「アルテ」。「創造」作り上げる「デザイン」ととらえ、社名に取り込みました。

ガラスインテリア品として さらなる歩を進める

1960年代後半〜1970年代前半は暮らしの洋風化が進み、マンション建設も続々と始まりカーテンやカーペットといった洋風のインテリアが注目されました。しかし、ライバル会社もガラステーブル生産に参入してきたことで

価格が暴落。そこで、テーブルだけでなくガラスインテリア品の普及に乗り出しました。学校を卒業したばかりの若手デザイナーを起用し、ヤングの若い感性に訴える製品ラインナップを整え、若者向けファッション誌でタイアップ広告を展開。高度な加工を可能にする工作機械を海外

から購入し、1975年にはアルテオリジナルミラーを発売しました。翌年1976年に晴海で開催した「第1回アルテ新作展」は多方面より注目を集め、有名百貨店や高級家具店への販路拡大に大きくつながりました。

進化を支えてきた鏡事業 今後はリフォームで勝負

ガラス家具の普及を実現した同社が次に目を向けたのは「鏡」でした。鏡といえば、かつて嫁入り道具の一つと数えられた「鏡台」が代名詞でしたが、その頃すでに生活様式の変化から置き場所に困る現実がありました。とはいえ「全身の映る姿見」のニーズは健在。洋室に似合うシンプルな、あるいはインテリア性のある鏡がほしいな、と思っても買い方や値段の相場も分かりません。



本社ショールームには取り扱い製品が所狭しと並べられています



鏡の枠はフィリピンやインドネシアから輸入。組み立てと品質管理は日本で行います

そこで始めたのが1985年発売の「自分サイズのオーダミラー」。あらかじめ決められたサイズやデザインから、自分の好きな鏡を選ぶことができます。大型マンションの新規入居者向けにサービスを展開し、今では同社の売上4.5億円の50%を占めるまでになりました。翌1986年にはベルギーのデクヌート社と提携を結び、外国市場開拓も行っています。業歴も長く、低迷している家具業界で一定の業績を上げていることから、2012年「新宿区優良企業表彰」(※)を受けました。今後、同社で注力していくのは住宅リフォーム市場です。「そこで新しいガラス、鏡の需要が生まれるはず。当社は建設業の登録もしており、施工から手がけることが可能。少し元気がなくなってきたという業界ですがリフォーム会社とともに盛り上げていきたいと思っています」創業時に「ガラススペースの未来をひらく」を理念に掲げたアルテジャパン。まだまだ躍進中です！

新宿ものづくりマイスター 「技の名匠」に学ぶ体験型教室

新宿区では、今年度より区の地場産業を含めたものづくり産業の理解を深めるとともに、「新宿ものづくりマイスター『技の名匠』」の認知度向上を図り「技の名匠」の技術技能を学ぶ機会となる「ものづくり産業体験型教室」を始めました。

新事業のお知らせです!

※今年度の「新宿ものづくりマイスター（技の名匠）」認定者は本誌8ページに掲載しています。併せてご覧ください。

今年度は7月中旬より12月上旬までに下記の6講座を行いました。

次年度も1講座10名で開催を予定ですが、開催時期、内容、参加者募集については追って「広報しんじゅく」「新宿区ホームページ」等でご案内していきます。



◆友禅染～オリジナル柄で名古屋帯を染めてみよう!～
講師:熊崎 和人氏(東京手描友禅)



◆しみ抜き～プロに学ぶしみ抜きの技!～
講師:松田 光二氏(染色補正)



◆更紗染～流行の江戸更紗柄のショールをつくらう!～
講師:富田 篤氏(東京染小紋)



◆木工～写真立てづくり～
講師:松本 義明氏(桐箆笥製造)



◆原型彫刻～金属ブローチづくり～
講師:坂本 国雄氏(金属原型彫刻)



◆友禅染～のれんづくり～
講師:飯島 武文氏(東京手描友禅)

【問合せ先】 地域文化部産業振興課 電話(3344)0701

「新宿区地域商業イメージアップ促進事業」のご案内

10月1日から6日間、早稲田古書店街連合会主催による『第27回早稲田青空古本祭』が穴八幡宮(西早稲田2-1-11)にて開催されました。早稲田界隈の古書店より24軒が出店し約30万冊の古書が並んだ大古本市に、今年も約8,000人が都内外を問わず来訪。このイベントは平成24年度に新宿区が新設した「地域商業イメージアップ促進事業」(※)の対象となり補助金を利用し開催したもの。1,000円以上の購入者には、開催期間中ならば加盟店で何度でも使える一割引券を配布するなど、昨年とひと味変えたサービスの効果もあって、古本祭の帰りに商店街を歩く購入者の姿も目立ちました。

「初めて来ましたが古本市は探しやすいです」(60代男性)



「ネットもいいですがピンポイントになりがちなので広く探せる古本市は何度も来ます」(30代男性)と評判も上々でした。

※新宿区地域商業イメージアップ促進事業

同業組合等が行う商店街活性化につながる事業に対し、区は補助対象経費の3分の2以内(上限50万円)を補助します。

【問合せ先】 地域文化部産業振興課 電話(3344)0701

BIZ SHINJUKU
10th Anniversary
10

新宿区立産業会館開館10周年記念イベント

イベントのお知らせです!

ビジネスフォーラム ～新宿からShinjukuへ～

日時／平成25年2月7日(木) 10:00-17:00

会場／BIZ新宿(新宿区立産業会館)

区では、新宿区立産業会館開館10周年記念行事として「ビジネスフォーラム～新宿からShinjukuへ～」を開催します。本イベントを通じて区内中小企業の交流とPRを促進し、世界に向けた企業づくりを応援するとともに、区内産業の活性化を図ります。



(株)喜代村 木村清社長

(株)喜代村(「すしざんまい」)木村清社長による講演会、ビジネス交流会、24年度「新宿区優良企業」「金賞(新宿区商店会連合会推奨)」表彰式等を予定しています。

【問合せ先】 地域文化部産業振興課 電話(3344)0701

工業統計調査にご協力ください



経済産業省では、工業統計調査を平成24年12月31日現在で全国一斉に実施します。

この調査は製造業を営む事業所を対象に、1年間の生産活動に伴う製造品の出荷額や原材料使用額などを調査し、製造業の実態を明らかにすることを目的としています。

調査結果は、国や地方公共団体の施策立案の資料となるほか、民間企業のマーケティングや大学の研究資料となるなど国民生活の幅広い分野で活用されています。

調査をお願いする事業所には、調査員証を携帯した

製造業を営む事業所の皆さまへ

調査員がお伺いしますので協力ください。

なお、調査票に記入していただいた内容については統計法により厳重に保護されます。また調査目的以外に利用することはありませんので、正確なご記入をお願いします。

【問合せ先】

地域文化部地域調整課統計係 電話(5273)4096



コウちゃん

コウギーくん

コウミちゃん

土曜日・日曜日でもOK

創業に関するご相談、承ります

ご利用できます!「創業相談」

事前予約制

～日本政策金融公庫 国民生活事業 東京ビジネスサポートプラザ～

東京ビジネスサポートプラザでは予約制による創業についての相談(無料)を承っています。お気軽にご相談ください。

【日時】 毎週土曜日(祝日除き)
毎月第1・3日曜日(祝日除き)
9:00～12:00 13:00～15:00
※平日も9:00～17:00に事前予約制でご相談を承っています。

【会場】 東京ビジネスサポートプラザ
東京都新宿区西新宿1-14-9
日本政策金融公庫 新宿支店 国民生活事業

【対象者】 創業をお考えの方
これまで当公庫(国民生活事業)を利用されたことのない事業者の方

【相談内容】 公庫の融資制度のご案内、事業計画書作成のポイントなど

【申込方法】 事前予約制ですので、お電話でお申込みください。

【問合せ・申込み先】

日本政策金融公庫 国民生活事業 東京ビジネスサポートプラザ
電話(3342)3831 受付時間 9:00～17:00(土日及び祝日除く)



日本政策金融公庫

国民生活事業



平成24年度 新宿ものづくりマイスター

技の名匠が決まりました!

新宿区では区内でものづくり産業の同一業種に10年以上従事し、優れた技術・技能を持ち、後進の指導を行っている方を「新宿ものづくりマイスター『技の名匠』」として認定しています。平成24年度は5名が認定されました。(敬称略)

婦人靴製造



捧 恭子

Belpasso(ベルパッソ)
所在地 若宮町11
電話 (5228)6528

手描友禅



工藤 博

藤彩染色工房
所在地 中里町12
電話 (3268)5956

東京染小紋



砂川 裕孝

株松網染工所
所在地 下落合4-4-32
電話 (3951)3721

革製品製造



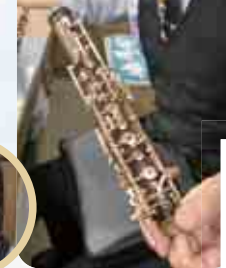
鮎澤 剛

鮎藤革包堂
所在地 筑土八幡町5-12
電話 (3267)0409

萩森 弥郁夫

日本ダブルリード(株)
所在地 西新宿1-4-11 宝ビル3F
電話 (3346)1761

管楽器修理



【問合せ先】 地域文化部産業振興課 電話(3344)0701

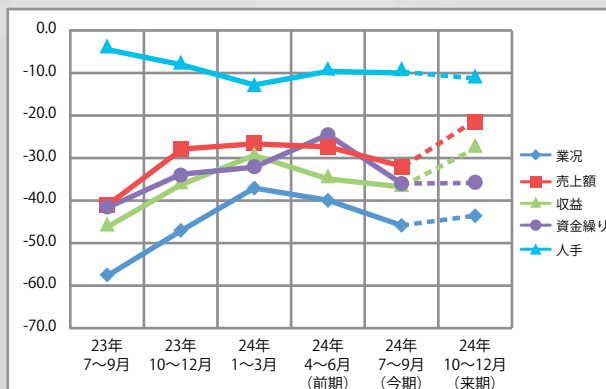
新宿区中小企業の景況

平成24年
7月～9月期

新宿区では区内中小企業に対する
「景況調査」を年4回実施しています

1. 調査時期 平成24年9月下旬
2. 調査方法 郵送アンケート調査
3. 調査対象業種 製造業(59件)、印刷・同関連業(43件)、染色業(18件)、建設業(64件)、情報通信業(57件)、卸売業(68件)、小売業(84件)、飲食・宿泊業(79件)、不動産業(60件)、サービス業(89件)
※カッコ内は有効回答数
4. 調査機関 (株)東京商工リサーチ

●項目別D.I.の推移(全体)



業況:経済全体の景気状態ではなく、個々の企業ないし産業の景気状況。
D.I.(ディーアイ):Diffusion Index(ディフュージョン インデックス)の略で、増加と答えた企業の割合から、減少と答えた企業の割合を差引いた数値のこと。D.I.値がマイナスの場合、業況・売上額・収益・資金繰りは不調傾向を、人手は不足傾向を示す。

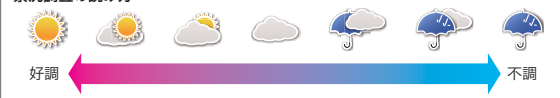
●7月～9月期の特徴

業況D.I.は-45.6と、前期(平成24年4月～6月)の-39.5から悪化している。前々期までの3期連続改善の動きが前期で停滞し、今期は悪化傾向を強めた。来期(平成24年10月～12月)の見通しは-43.3と、わずかに改善する見込みとなっている。

●業種別調査結果(7月～9月期)

製造業	印刷・同関連業	染色業	建設業	情報通信業
卸売業	小売業	飲食・宿泊業	不動産業	サービス業

景況調査の読み方



※景況調査の詳細は、新宿区ホームページでご覧いただけます。